

令和元年産

# 大崎稲作情報 第4号

令和元年7月12日発行

宮城県米づくり推進大崎地方本部

大崎農業改良普及センター

TEL 0229-91-0726 FAX0229-23-0910

<http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

## 今回のポイント

- 1 気温が平年よりかなり低くなる予報です。  
今後の天候に注意しながら、幼穂を保護するため、深水管理をしましょう。
- 2 いもち病は、予防が第一！早期防除・早期発見に努めましょう。
- 3 追肥は、葉色、生育ステージ、生育量を見て行いましょう。
- 4 斑点米カメムシ類対策として、雑草防除を徹底しましょう。

## 1 気象経過と生育概況

### (1) 気象経過

6月の平均気温は平年を上回りました。日照時間は平年並で、降水量は平年よりも多くなりました。梅雨入りは6月7日ごろでした。

7月1日から9日の気温は平年を下回り、また日照時間も平年を大きく下回りました。降水量は平年を下回りました。

表-1 気象経過

観測地点	月	平均気温 (平年差)	最高気温 (平年差)	最低気温 (平年差)	日照時間 (平年比)	降水量 (平年比)
古川	6月	+0.2℃	+0.1℃	+0.1℃	103%	124%
	7月1日~9日	-0.5℃	-1.0℃	-0.2℃	76%	34%
川渡	6月	+0.1℃	+0.4℃	-0.1℃	95%	138%
	7月1日~9日	-0.6℃	-0.9℃	-0.3℃	62%	27%

### (2) 生育概況

水稻の生育は、7月の低温の影響により、平年並~やや劣っていると思われます。管内の各調査地点の生育状況は、表2のとおりです。

- 草丈は、すべてのほ場で平年より短い傾向にあります。
- 茎数は、平年並~少ない傾向です。
- 葉数は、ほ場によるばらつきはあるものの、すべての地点で順調に増加し、平年並となっています。  
(前回7月2日調査から0.6~0.7葉増加)
- 葉色は、田植えの遅かった地点を除いて、平年より低い傾向にあります。
- 幼穂長を見ると、幼穂形成始期(幼穂長1mm)に達している地点が見られます。

また、県米づくり推進本部が発表した当管内の地帯区分別生育ステージ予測(7月3日現在)は、表3のとおりです。

表2 7月10日の調査結果

地区名 (地帯区分)	品種名 (田植・播種月日)	草丈 (cm) (平年比)	莖数 (本/m) (平年比)	葉数 (枚) (平年差)	葉色 (SPAD) (平年差)	幼穂長 (mm) (平年差)
三本木 (北部平坦)	ひとめぼれ (5月4日)	59.0 (93%)	532.4 (98%)	10.7 (±0.0)	38.4 (-1.2)	2.6 (±0.0)
小野田 (西部丘陵)	ひとめぼれ (5月19日)	56.9 (95%)	514.7 (90%)	10.6 (-0.4)	45.2 (+3.2)	0.6 (-1.1)
古川 (北部平坦)	ササニシキ (5月8日)	59.4 (94%)	626.8 (96%)	11.2 (+0.2)	36.7 (-3.0)	1.0 (-0.2)
三本木 (北部平坦)	だて正夢 (5月4日)	61.5 (-)	529.9 (-)	11.2 (-)	40.7 (-)	2.1 (-)
三本木 (北部平坦)	金のいぶき (5月10日)	59.4 (-)	538.8 (-)	11.5 (-)	34.1 (-)	0.0 (-)
宮崎 (西部丘陵)	まなむすめ (5月12日)	54.7 (89%)	488.4 (89%)	10.4 (-0.1)	38.3 (±0.0)	1.7 (+0.2)
鳴子 (山間高冷)	ゆきむすび (5月24日)	46.6 (-)	279.9 (-)	9.2 (-)	45.7 (-)	0.0 (-)
真山 (北部平坦)	みやこがねもち (5月19日)	53.9 (91%)	451.1 (80%)	11.0 (-0.2)	37.6 (+1.9)	0.0 (-)
加美 (北部平坦)	直播ひとめぼれ (5月6日)	41.9 (79%)	587.8 (97%)	9.0 (-0.7)	39.9 (+0.5)	0.0 (-0.2)
県全体		57.8 (95%)	560.0 (99%)	10.8 (-0.8)	40.7 (+1.8)	1.8 (-1.0)

※平年比・差は、前5か年(平成26年~平成30年)の平均値との比較。

県全体は、ひとめぼれ、ササニシキ、まなむすめの生育調査ほ35地点の平均値。

表3 地帯区分別生育ステージの予測(7月3日現在) ※県米づくり推進本部資料抜粋

地帯区分	田植時期	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期
	始期~終期	始期~終期	始期~終期	始期~終期
北部平坦	5/2 ~ 5/19	7/2 ~ 7/11	7/12 ~ 7/21	7/31 ~ 8/7
西部丘陵	5/7 ~ 5/26	7/5 ~ 7/16	7/15 ~ 7/26	8/3 ~ 8/12
山間高冷	5/7 ~ 5/27	7/10 ~ 7/17	7/20 ~ 7/27	8/12 ~ 8/19

※1) 7月3日までアメダスデータ実測値を使用, 7月4日以降はアメダス平年値を使用。

※2) 対象品種は「ひとめぼれ」及び「ササニシキ」, 山間高冷は「やまのしずく」。

## 2 今後の管理(幼穂形成期から登熟期)

### (1) 水管理

#### ① 幼穂形成期・減数分裂期(穂ばらみ期)から出穂期

- ・イネが最も水を要する時期です。水不足は、幼穂の発育や開花受精が妨げられて減収します。
- ・幼穂形成期に達したら、**中干しを終了し、走り水で徐々に入水した後に間断かん水、又は飽水管理**を行い、根に十分水分を与えつつ酸素を供給しましょう。
- ・**7月12頃にかけて気温が平年よりもかなり低くなる予報が出ています。**深水管理で幼穂を保護しましょう。水深が確保できない場合でも、無風状態であれば田面の気温は1~2℃高くなるので、可能な限り深水にして被害を回避しましょう。

中干し：田面に小さな亀裂が入り、足跡が付く程度の固さまで、水を落とす。  
 走り水：土の表面をサーッと走る程度に水を入れる。  
 間断かん水：田面に水をいれた状態と落水した状態とを数日おきに繰り返す。  
 飽水管理：田面の足跡に水がなくなったら入水し、表土が湿ったら落水。

表4 幼穂等の長さとお穂までの日数の目安

発育過程	出穂前日数	幼穂長(mm)	葉耳間長(cm)	低温時の水深(cm)
幼穂形成始期	25日前	1~2	—	5~10cm程度
減数分裂期	始期	15日前	30~40	-10
	盛期	12日前	80~100	±0

② 出穂後から登熟期

- ・浅水間断かん水を行い、根の健全化に努めましょう。
- ・落水の適期は出穂後30日頃です。ただし、湿田はやや早めに、乾きやすい水田ではやや遅くしましょう。落水後に好天が続く、乾きすぎるときは走り水程度のかん水をしましょう。

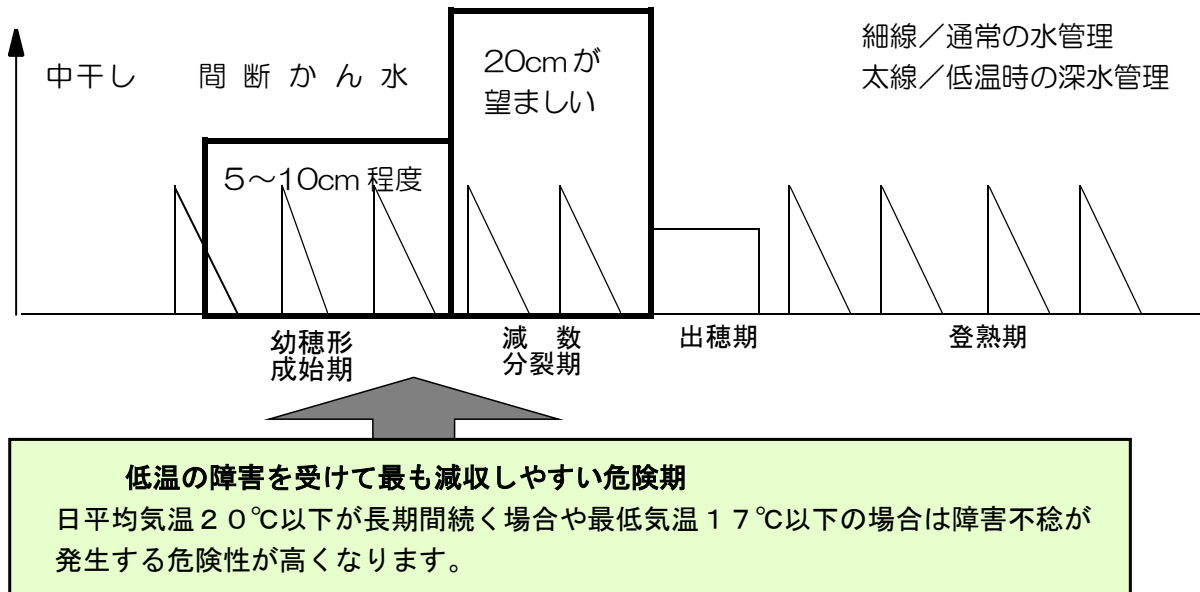


図1 今後の水管理

(2) 追肥

- ・今回の調査結果では、葉色が平年より低くなっている地点が多いです。ほ場毎に葉色及び生育ステージ、生育量を見て、品種毎に適正な追肥を行い、葉色が急激に低下しないようにしましょう。
- ・葉色の目安(表5)及び追肥の目安(表6)を参考にしてください。

表5 幼穂形成始期及び減数分裂始期の葉色の目安(主な品種)

品種名	幼穂形成期(出穂25日前)		減数分裂期(出穂15日前)	
	カラースケール	葉緑素計値(SPAD値)	カラースケール	葉緑素計値(SPAD値)
ひとめぼれ	4.2~4.5	37~39	3.9~4.2	35~37
ササニシキ	—	—	3.4~3.7	32~34
まなむすめ	3.9~4.2	35~37	—	—

表6 追肥の目安（主な品種）

品種名	追肥時期別及び施用量(窒素成分量)	
	幼穂形成期(出穂25～20日前) [幼穂長 1～2mm]	減数分裂期(出穂15～10日前) [幼穂長 30～120mm]
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg/10a	+ 1.0kg/10a
ササニシキ コシヒカリ	—	1.0～1.5kg/10a
まなむすめ つや姫	2.0kg/10a	—
やまのしずく だて正夢	—	2.0kg/10a
みやこがねもち	—	1.0kg/10a

### (3) 病虫害防除

#### ① いもち病

- 梅雨時期に入り、いもち病の感染に好適な日が多くなります。しっかりほ場の観察を行い、早期発見・早期防除に努めましょう。
- 特に追肥後は、一時的にいもち病に対する抵抗力が弱まるので、注意願います。
- 本田で発生が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。特に箱剤を入れていないほ場では、注意しましょう。

感染に好適な条件	3つが全て満たされると感染に好適な条件となります。好適条件が連続して広域で出現した場合、約2週間後に葉いもちの発病の増加が始まります。
1 葉面湿潤時間が10時間以上	
2 葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃	
3 前5日間の平均気温が20℃～25℃	

※最新の葉いもち感染好適条件の出現状況は、宮城県病虫害防除所ホームページで確認できます。

HP<<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>>



葉いもちの病斑

#### ② 斑点米カメムシ類

- 斑点米カメムシ類は、斑点米の原因となります。水田周辺の牧草地・雑草地の草刈りを7月中旬（斑点米カメムシ類が幼虫主体の時期）までに行いましょう。水田畔の草刈りは、水稻の出穂10日前までに行いましょう。
- 薬剤防除は穂揃い期とその7～10日後の2回防除が基本です。イヌホタルイ、ノビエ等が残草しているほ場では、1回目の薬剤散布時期を出穂始から穂揃い期に早め、斑点米カメムシ類の密度を減少させましょう。



アカスジカスミカメ（成虫）

#### ③ 紋枯病

- 出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、発生に注意してください。気温が22～23℃を超え、株間湿度が高くなると発生しやすくなります。
- 特に前年発生した水田では、穂ばらみ期に水面施用剤の施用、穂ばらみ期から出穂期の茎葉散布剤の施用を検討しましょう。

#### ④ 稲こうじ病

- ・穂ばらみ期に低温で降雨が多く、出穂期以降に高温になると発生しやすくなります。
- ・特に前年発生した水田では、出穂20～10日前に銅含有薬剤の施用を検討しましょう。
- ・紋枯病との同時防除剤の散布は、穂ばらみ期に行いましょう。
- ・穂いもち、紋枯病と同時防除剤の散布は、出穂10日前頃に行いましょう。

### ◆◆◆◆◆◆◆◆農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）◆◆◆◆◆◆◆◆

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名等ラベルなどで確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って適正に使用しましょう。

※最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターホームページで確認できます。

HP<<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>>

## 3 今後の気象

### 低温と日照不足に関する気象情報について

仙台管区气象台から、令和元年7月8日に「低温に関する宮城県気象情報第1号」及び「日照不足と低温に関する宮城県気象情報第1号」が発表されました。以下、詳細となります。

#### 低温に関する宮城県気象情報 第1号

令和元年7月8日11時11分 仙台管区气象台発表※抜粋

(見出し)

宮城県では、12日頃にかけて日平均気温が平年よりかなり低い所がある見込みです。農作物の管理などに注意してください。

(本文)

宮城県では、千島の東に中心を持つ高気圧からの冷たく湿った空気の影響により、12日頃にかけて気温の低い状態が続くでしょう。日平均気温が平年より4度前後低く、5月下旬並みとなる所もある見込みです。

農作物の管理などに注意してください。

#### 日照不足と低温に関する宮城県気象情報 第1号

令和元年7月8日15時15分 仙台管区气象台発表 ※抜粋

(見出し)

宮城県では、6月28日頃から日照時間の少ない状態が続いています。この状態は、今後2週間程度は続くでしょう。また、今後2週間程度は平年に比べ気温の低い状態が続く見込みです。農作物の管理等に十分注意してください。

(本文)

宮城県では、6月28日頃から湿った東よりの風の影響で日照時間の少ない状態が続き、6月28日から7月7日までの日照時間は平年の60%前後となっている所が多くなっています。

この状態は、今後2週間程度は続くでしょう。また、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った東風の影響を受けやすく、今後2週間程度は平年に比べ気温の低い状態が続き、かなり低くなる所がある見込みです。

農作物の管理等に十分注意してください。

## 東北地方 1 か月予報

(7月13日から8月12日までの天候見通し)

令和元年 7月 11日

仙台管区気象台 発表※一部抜粋

### <特に注意を要する事項>

東北太平洋側では、期間のはじめは日照時間が少なく、気温の低い状態が続く見込みです。

### <予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北太平洋側では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の日照時間は、東北太平洋側で平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、東北太平洋側で平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北太平洋側	30	40	30
【降水量】	東北地方	30	40	30
【日照時間】	東北太平洋側	40	40	20

### <気象経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北太平洋側	40	40	20
2週目	東北地方	20	50	30
3～4週目	東北地方	20	40	40

### <予報の対象期間>

1か月	7月13日(土)～8月12日(月)
1週目	7月13日(土)～7月19日(金)
2週目	7月20日(土)～7月26日(金)
3～4週目	7月27日(土)～8月9日(金)